

令和5年度に係る自己点検・評価の報告書

令和6年6月4日
部局名：工学部

1. はじめに

工学部においては令和3年度に改組されており、この度の令和5年度に係る自己点検・評価においても改組後の工学部に対して実施している。

2. 実施体制・手順

実施体制について、教育課程はFD委員会、学生支援は学生生活委員会、学生受入は入学試験委員会が所掌していることから、各々の委員会委員長が根拠資料をもとに実施内容の適切性について確認した。研究については工学倫理教育のシラバス、総務については岡山大学基幹教員数等を事務部で収集した。これらの資料に基づいて、学部長及び副学部長から構成される学部長室会議にて実施内容確認を行った。

3. 総括

令和5年度に実施する自己点検・評価項目としては適切であると評価することができる。工学部としては、前年度に取り組んだ内容をまとめた教育年報を作成のうえ公開し、また、外部評価委員会やピアレビューなど第三者からの評価を受けるための取組を以前より実施している。こういった取組を通して教育の質向上に努めており、今後も継続して実施することの必要性を認識している。

なお、卒業生に関する点検・評価項目については対象から除外しており、これは令和3年度に改組されている工学部においては、令和5年度時点では自己点検・評価の対象となる学生が1・2・3年次生のみのためである。

4. 前年度の点検・評価の結果、確認された改善を要する事項（前年度の点検・評価実施時点で対応済のものを除く。）の対応状況

特になし。

5. 点検・評価の結果、確認された改善を要する事項のうち主要なもの

特になし。

6. 点検・評価の結果、確認された全学での検討が必要な課題のうち主要なもの

特になし。

7. 点検・評価の結果、「注意が必要」とした事項に対し、維持・向上させるための活動計画のうち主要なもの

特になし。

8. 点検・評価の結果、優れた成果が確認できる取組のうち主要なもの

特になし。